

# 研究結果報告書

台湾の日本語主専攻学習者と日本語非主専攻学習者のビリーフの研究

所属：大同大学 応用外語系  
役職：助理教授  
氏名：陳 明涓

## 【研究テーマ】

台湾の日本語主専攻学習者と日本語非主専攻学習者のビリーフの研究

## 【研究結果】

Horwitz (1987) は教授法と学習者ビリーフ（学習者が語学学習の際に抱く態度や考え方）の衝突が学習効果に影響を与えると提言した。これまで台湾の学習者を対象にしたビリーフ研究は一大学内での調査（服部2002, 陳2014）か、日本語主専攻学習者のみを対象にした調査（盧2011）しかなかった。しかし、実際台湾の日本語学習者は非専攻学習者が多く、全体の8割近くを占めている。また、教師が教育現場で感じた事象：日本語主専攻クラスと日本語非専攻クラスの違いも念頭に入れた上、本研究は広範囲の調査を計画した。学校や、地域の枠組みを超えてデータ収集を行い、台湾の日本語学習者のビリーフ全体像をより正確に捉えることを試みた。

調査はHorwitz (1987) と同じく質問紙の方法で実施した。質問紙の内容はHorwitzが開発したBALLIを基に、板井 (1997, 1999) と関崎 (2009) の項目も取り入れ、更に領域や項目の再検討をしてから作成した。台湾の北、中、南部の学校の協力により、14校1,384名（主専攻学習者730名、非専攻学習者654名）の有効データを収集することができた。

回収したデータを日本語主専攻学習者と日本語非専攻学習者の二群に分けてt検定を実施した。その結果、18項目で有意差が確認できた。台湾の日本語主専攻学習者と非専攻学習者は教師が現場で感じた事象通り、違うビリーフを持っていることが明らかになった。また、有意差が確認できた項目を更に分析すると、両グループの主な異なりは、言語の習得法と、教師の役割と授業法に対するビリーフであることがわかった。この結果は現場の授業方法や、内容の見直しなどの一つの参考になると思われる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

印刷中

題名：「日本語非専攻学習者のビリーフ調査－台湾の大学生を対象に－」

発表者名：陳明涓

投稿論文誌：『言語文化と日本語教育』50号

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)